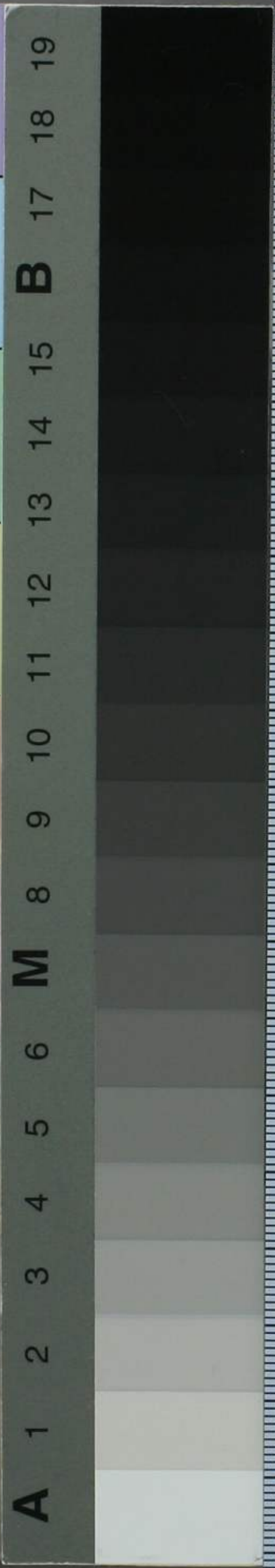
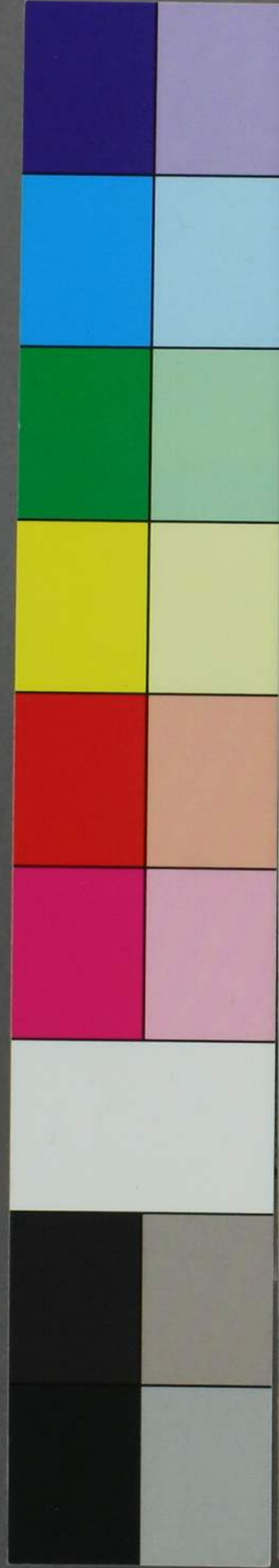


大坪本流色紙之卷



上りきけり下は上角や
トすもけりてふさきふ
濁りなる大濁小濁いすこ
拙海二十七八方乃すみ
鞠乃と十二此曲とつたに
八乃其あはれとあふ
あはれきとくさあて強
その越あて軽毎に
若石や海と川と波波射
宗人の心馬あよる
自徳あてあて宗あはれ
拙宗あてあて川と
たつとに大魚あて
九折あてあて
あはれあて一曲真あて
はあてあて直あて
あつあてあてあてあて

九折を也時く其の曲
を仰りて一此直及依の曲
はましく直るといふ事
去つまりていふ遠くを
證てあつたはちうは
はよたはなりといふ事
新粉の事さようは
去りつて證てあつた馬
水車とて折出あつた
お場お馬はんといふ
は乃個鏡ははけこの事
友里より氏親の重や梅
暖帯をさあははつた
邊物をさういふは授
まゝに二三の事
ある馬鏡といふ馬
車氏の事な事
書くは馬な事いふ直
抽きとりを取よせ
お場といふ馬はん
川次郎の事いふ
宗中は大事なり
法をたてたる事
首折つていふ事



大坪本流色紙之巻

特別
ケ5
1024